

令和3年度 岡山市自殺対策連絡協議会 開催結果について

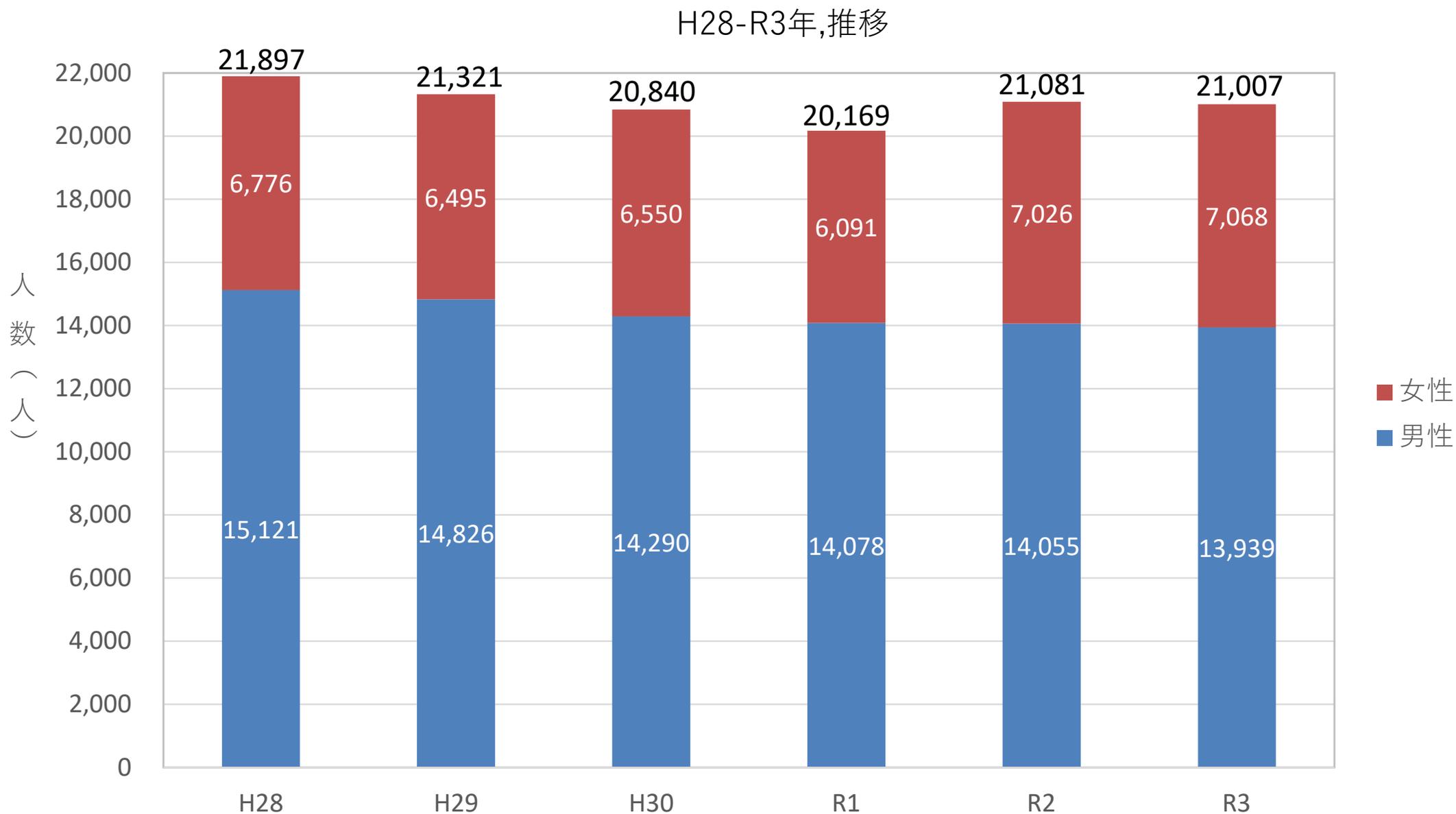
- ①新型コロナウイルス感染拡大以降の自殺の状況 P 1
- ②自殺対策の今後の動き P20
- ③各団体からの主な意見等 P23

令和4年3月18日
岡山市

①新型コロナウイルス感染拡大以降の 自殺の状況

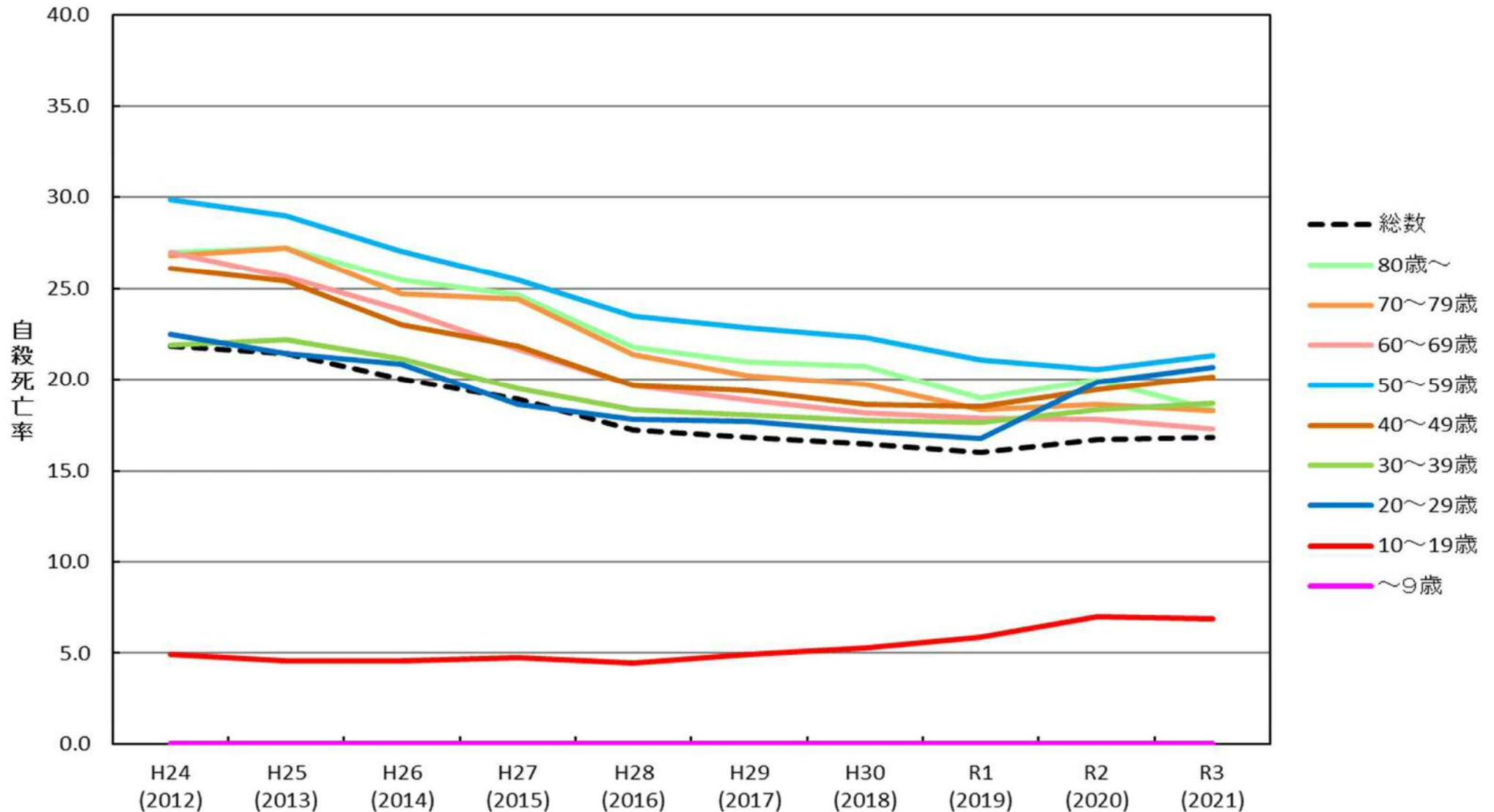
全国の自殺死亡者数の年次推移 男女合計

- 自殺死亡者数は長期的に減少傾向にあり、R1年には統計開始以来最も少なくなったが、R2年は増加しており、特に女性の増加が顕著であった。
- R3年は全体としては減少に転じているが女性は増加している。



年齢階級別自殺死亡率の年次推移

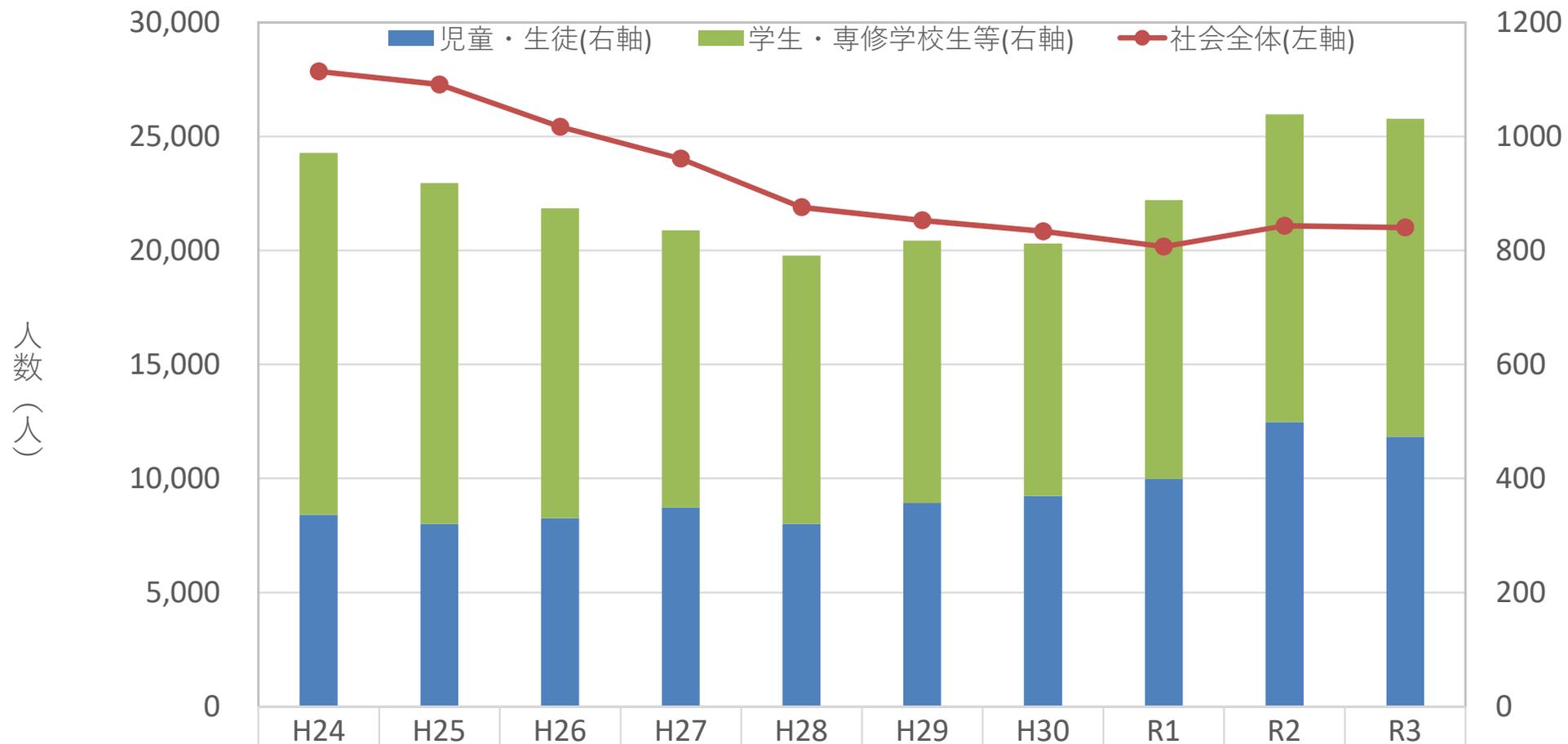
- R2年はR1年と比較して、50歳代及び60歳代以外各年齢階級で上昇した。
- R2年はR1年と比較して、20歳代及び10歳代で大きく上昇し、それぞれ3.0、1.1ポイント上昇した。
- R3年はR2年と比較して、20歳代及び50歳代で大きく上昇し、それぞれ0.9、0.8ポイント上昇した。



学生・生徒の自殺死亡者数の年次推移

○社会全体の死亡者数が減少傾向にある中、学生・生徒の自殺者数はH28年以降増加傾向にある。
 ○学生・生徒のうち、大学生と専修学校生を除いた「児童・生徒」はR2年で特に増加している。

H24-R3,推移



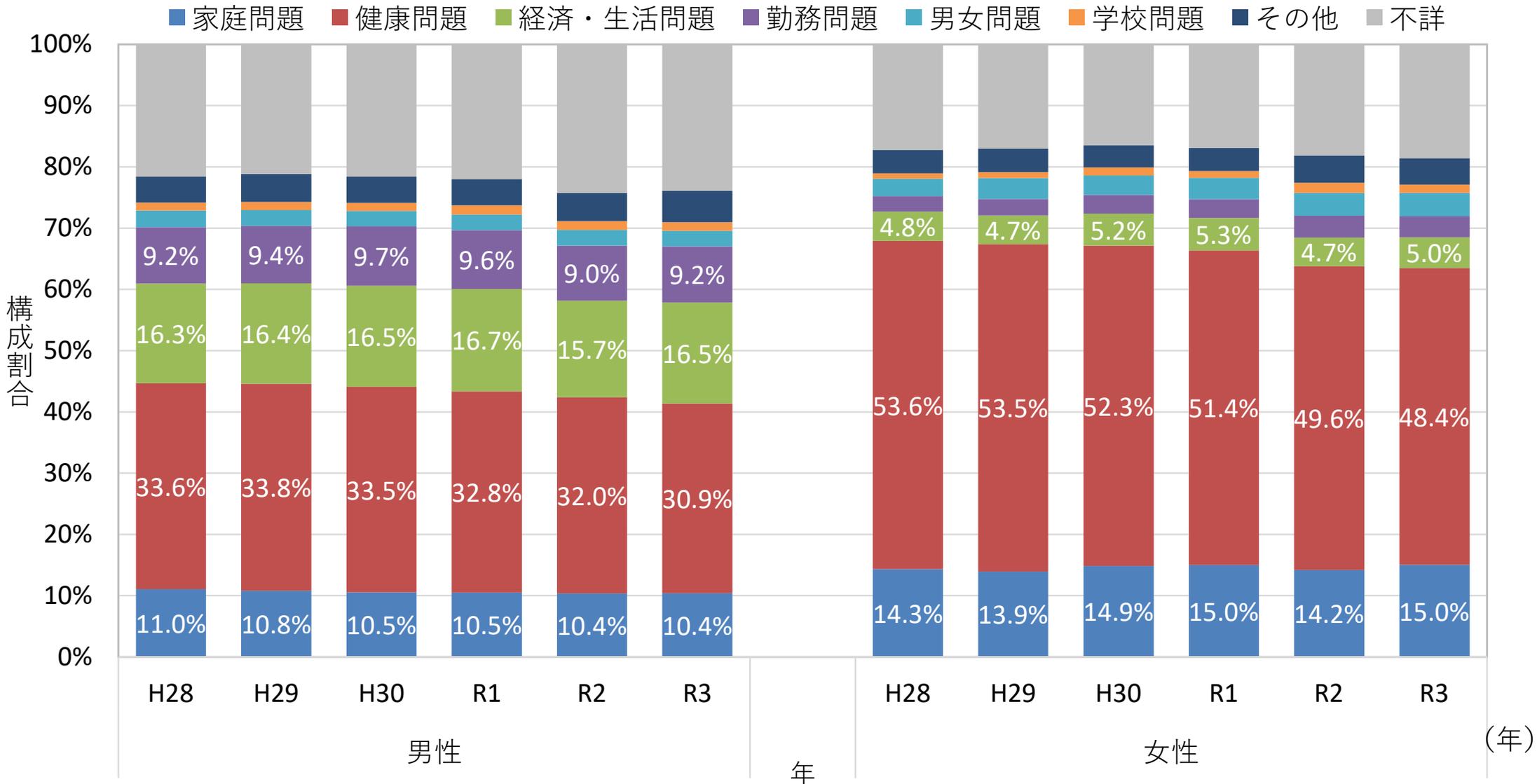
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
■ 学生・専修学校生等(右軸)	635	598	544	486	471	460	443	489	540	558
■ 児童・生徒(右軸)	336	320	330	349	320	357	369	399	499	473
● 社会全体(左軸)	27,858	27,283	25,427	24,025	21,897	21,321	20,840	20,169	21,081	21,007

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料（警察統計 全国、発見日）」より岡山市作成

全国の自殺死亡者（男女別）の自殺原因・動機別構成割合の推移 ※複数該当あり

○過去5年間の自殺原因・動機別構成割合はほとんど変化がみられず、新型コロナウイルス感染拡大の前後の状況について明確な違いは見られない。

H28-R3,推移

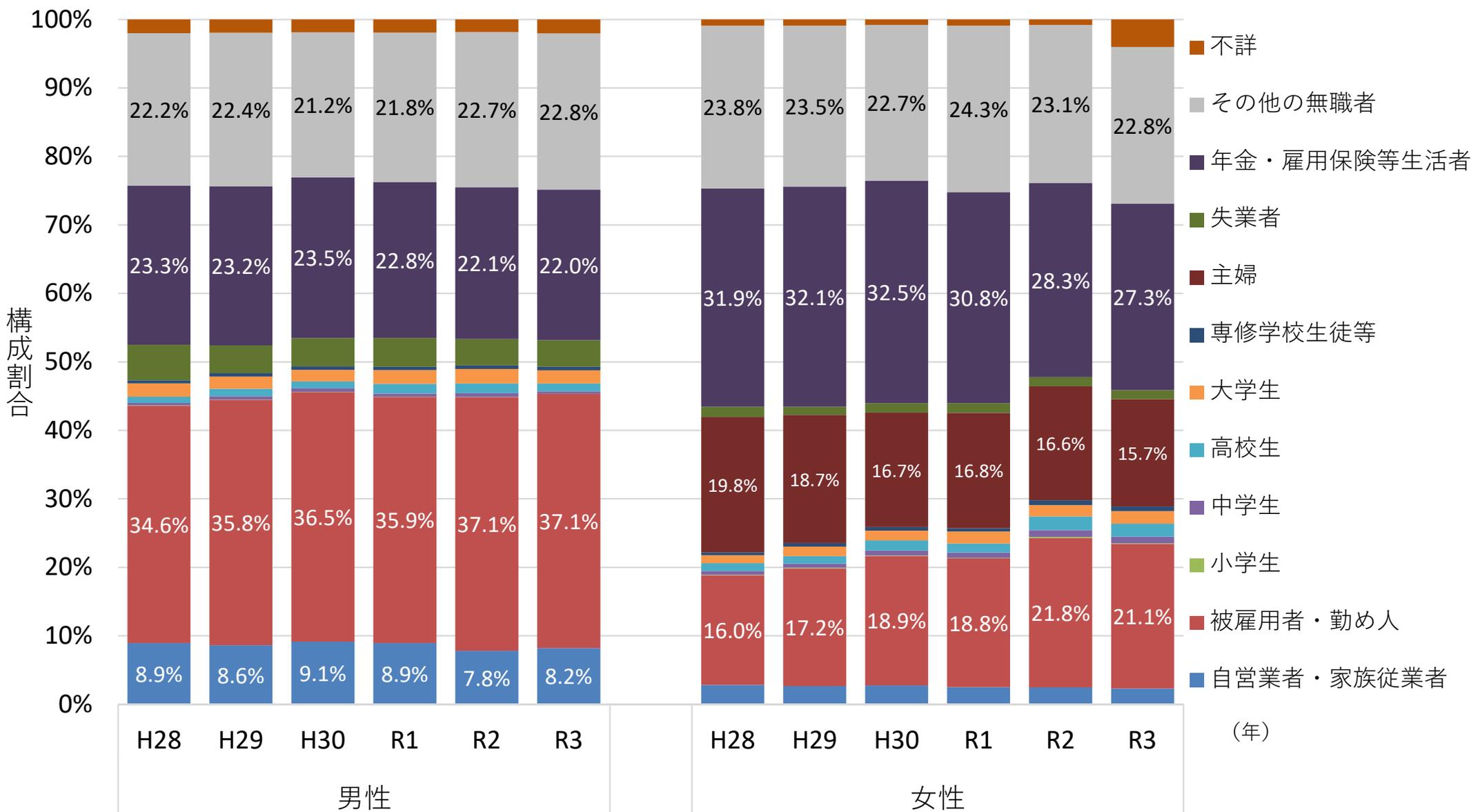


資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（警察統計 発見日・居住地）より岡山市作成 ※R3年の割合は暫定値から算出

全国の職業別自殺死亡者数の構成割合の推移（男女別）

○男性はコロナの前後で構成割合に大きな変化は見られないが、女性はR2年以降「被雇用者・勤め人」の割合が若干増加している。

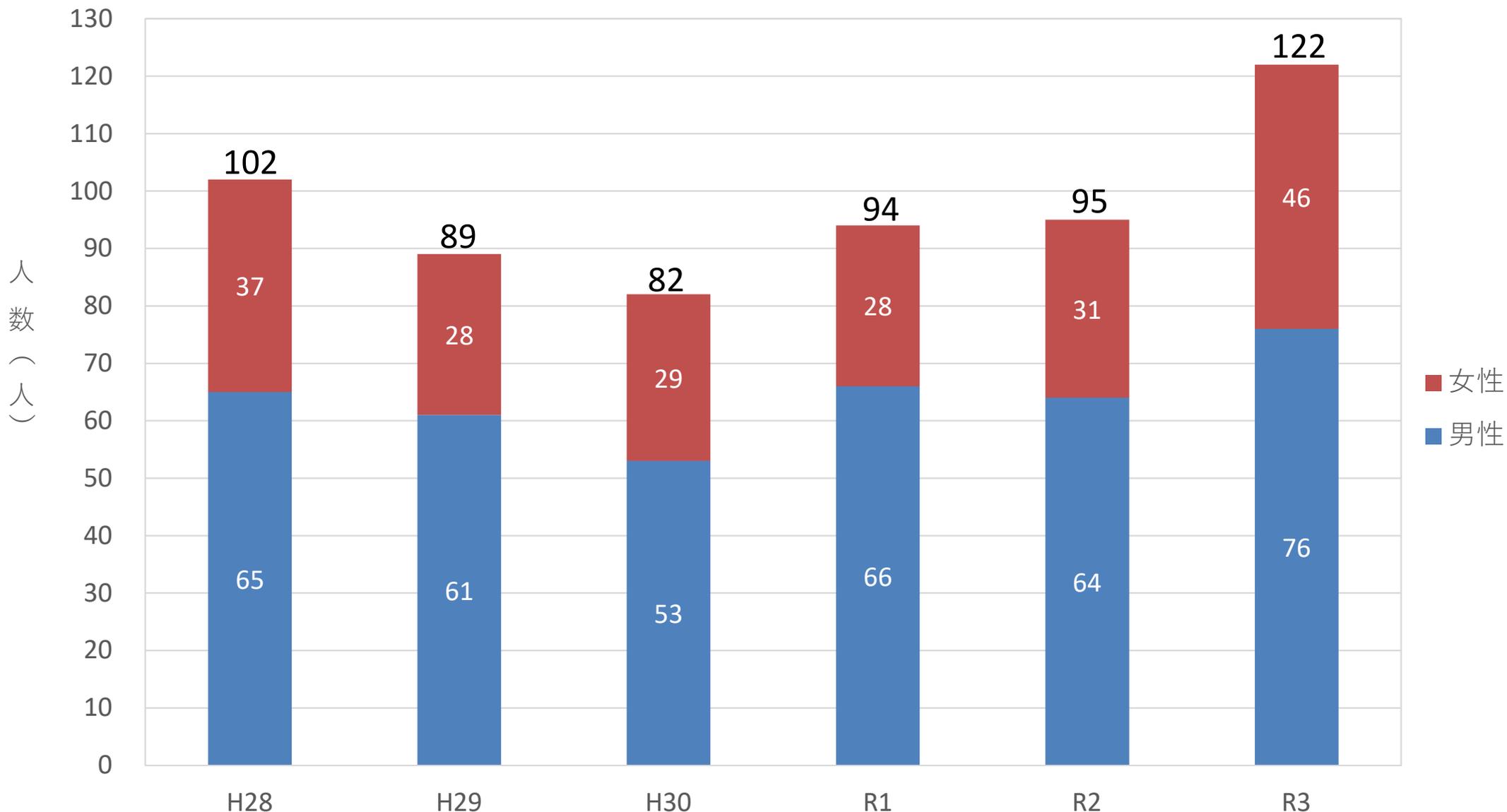
H28-R3, 推移



岡山市の自殺死亡者数の年次推移 男女合計

○自殺死亡者数について、全国では、R1年からR2年にかけて増加し、R3年には減少しているのに対して、岡山市では、R1年とR2年に明確な違いは見られなかったが、R3年は大きく増加している。

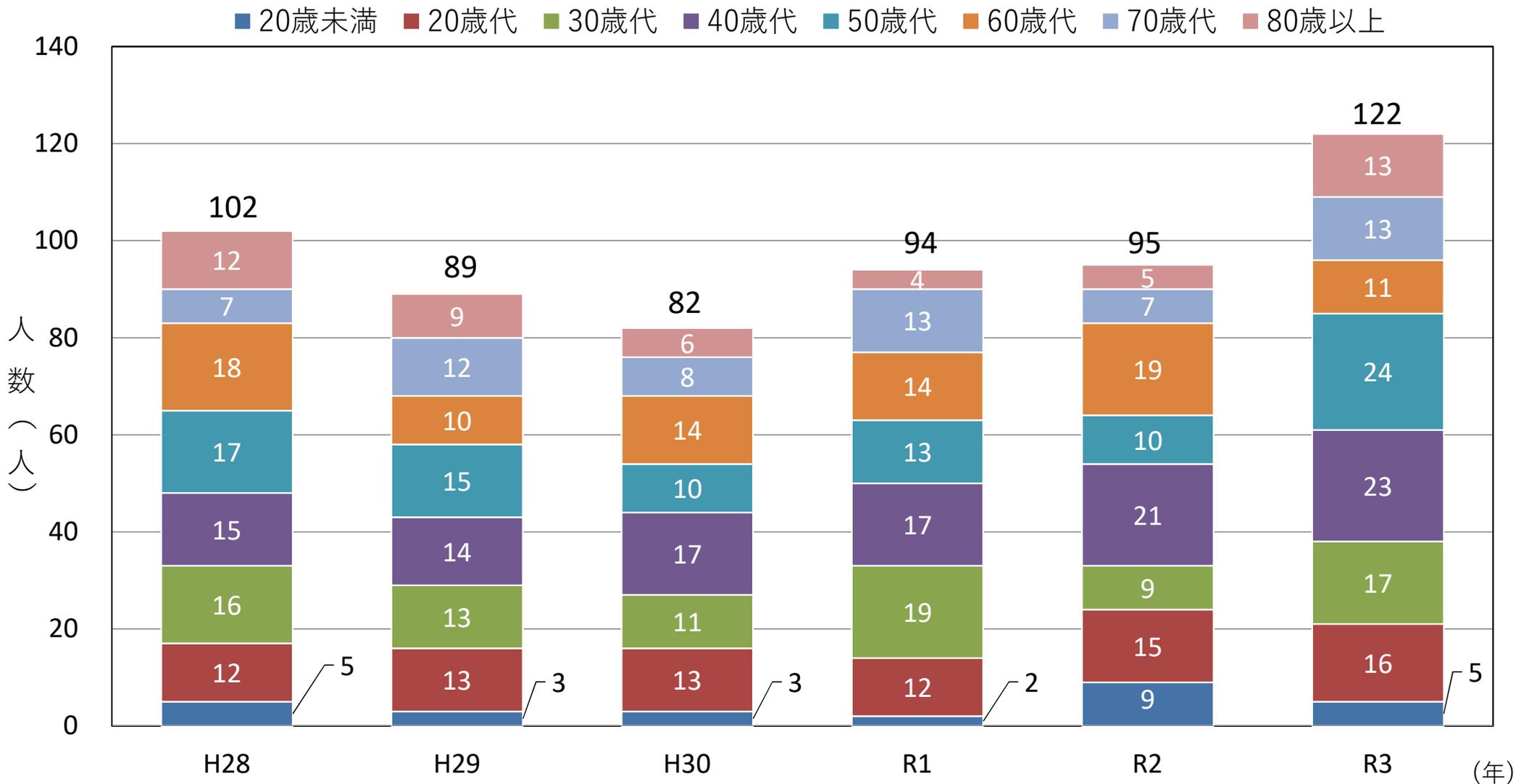
H28-R3年,推移



岡山市の年齢階級別自殺死亡者数の推移

○R2年の自殺死亡者は前年度と比べて横ばいの状態だが、R2年の20歳未満の死亡者数は過去5年間で最も多くなっている。
 ○R3年は20歳代から50歳代のいわゆる「働き盛り層」と70歳代以上の高齢者の自殺死亡者数が増加している。

H28-R3年,推移

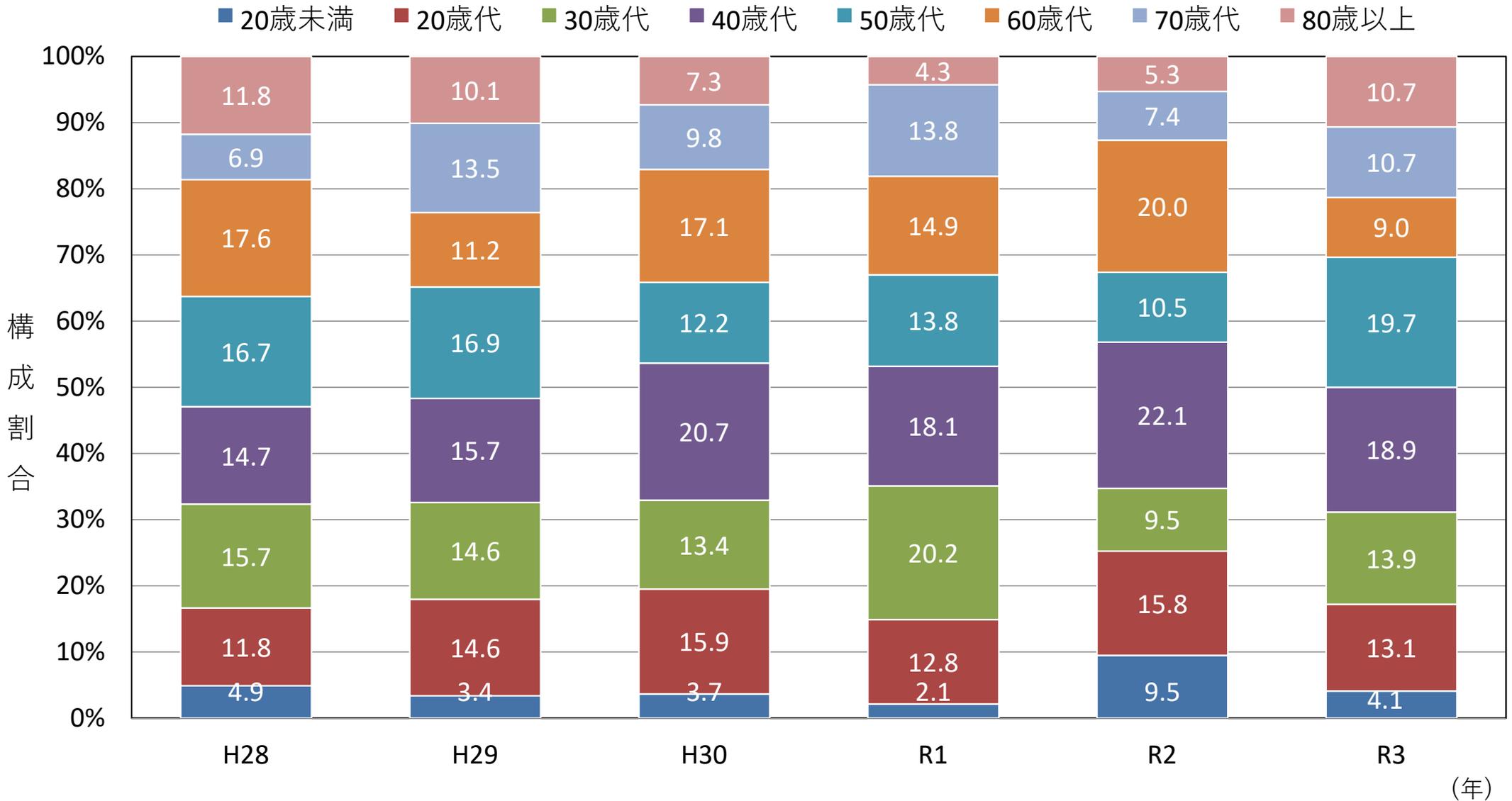


資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（警察統計 発見日・居住地）より岡山市作成

岡山市の自殺死亡者の年齢階級別構成割合の推移

○年齢階級別構成割合でも、R3年は20歳代から50歳代のいわゆる「働き盛り層」と70歳代以上の高齢者の割合の増加がみられる。

H28-R3年,推移



(年)

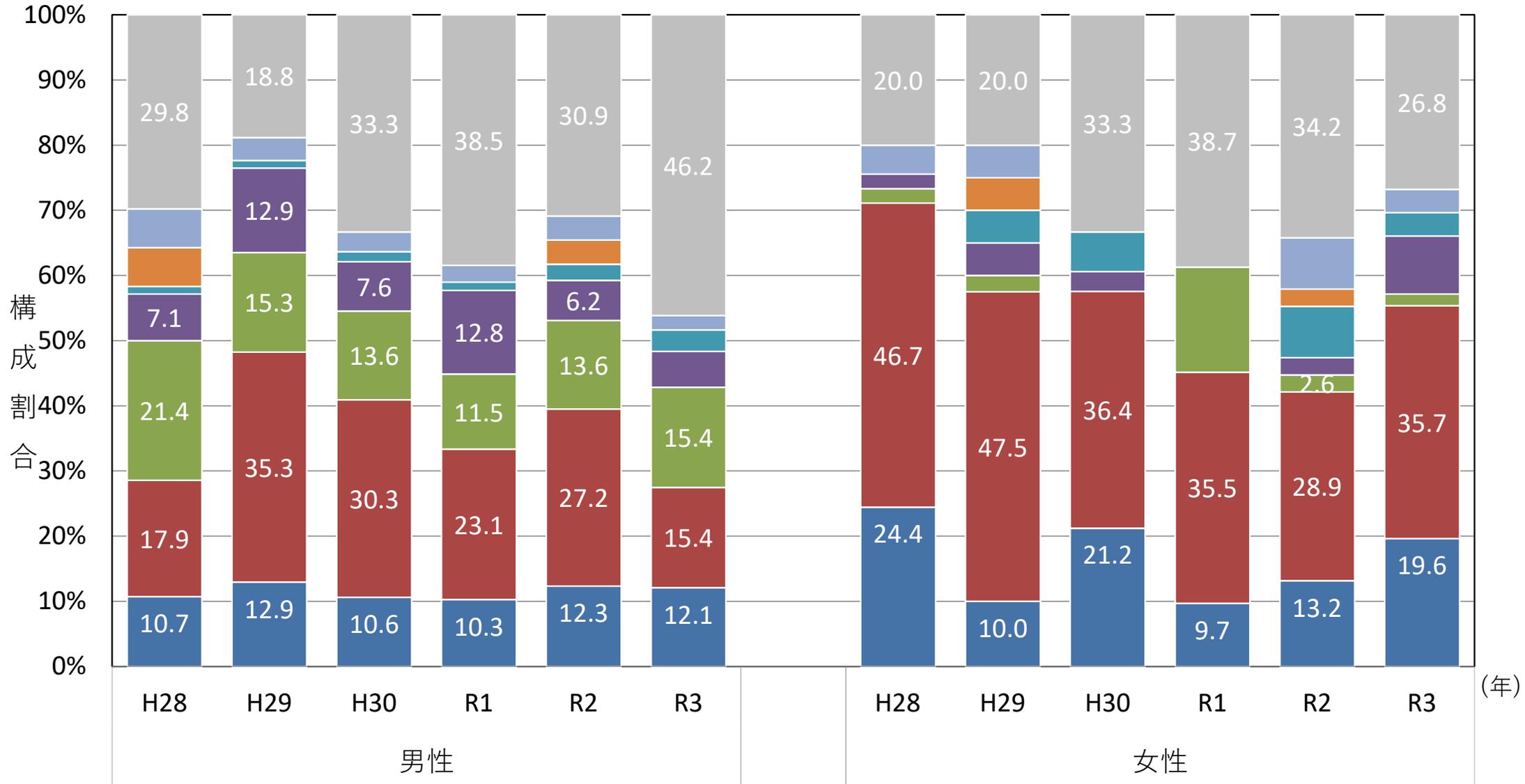
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（警察統計 発見日・居住地）より岡山市作成

岡山市の自殺死亡者（男女別）の自殺原因・動機別割合の推移 ※複数該当あり

○自殺の原因・動機は、男性女性とも「健康問題」の割合が最も高く、特に女性においてその割合が高い。

H28-R3年,推移

■ 家庭問題 ■ 健康問題 ■ 経済・生活問題 ■ 勤務問題 ■ 男女問題 ■ 学校問題 ■ その他 ■ 不詳

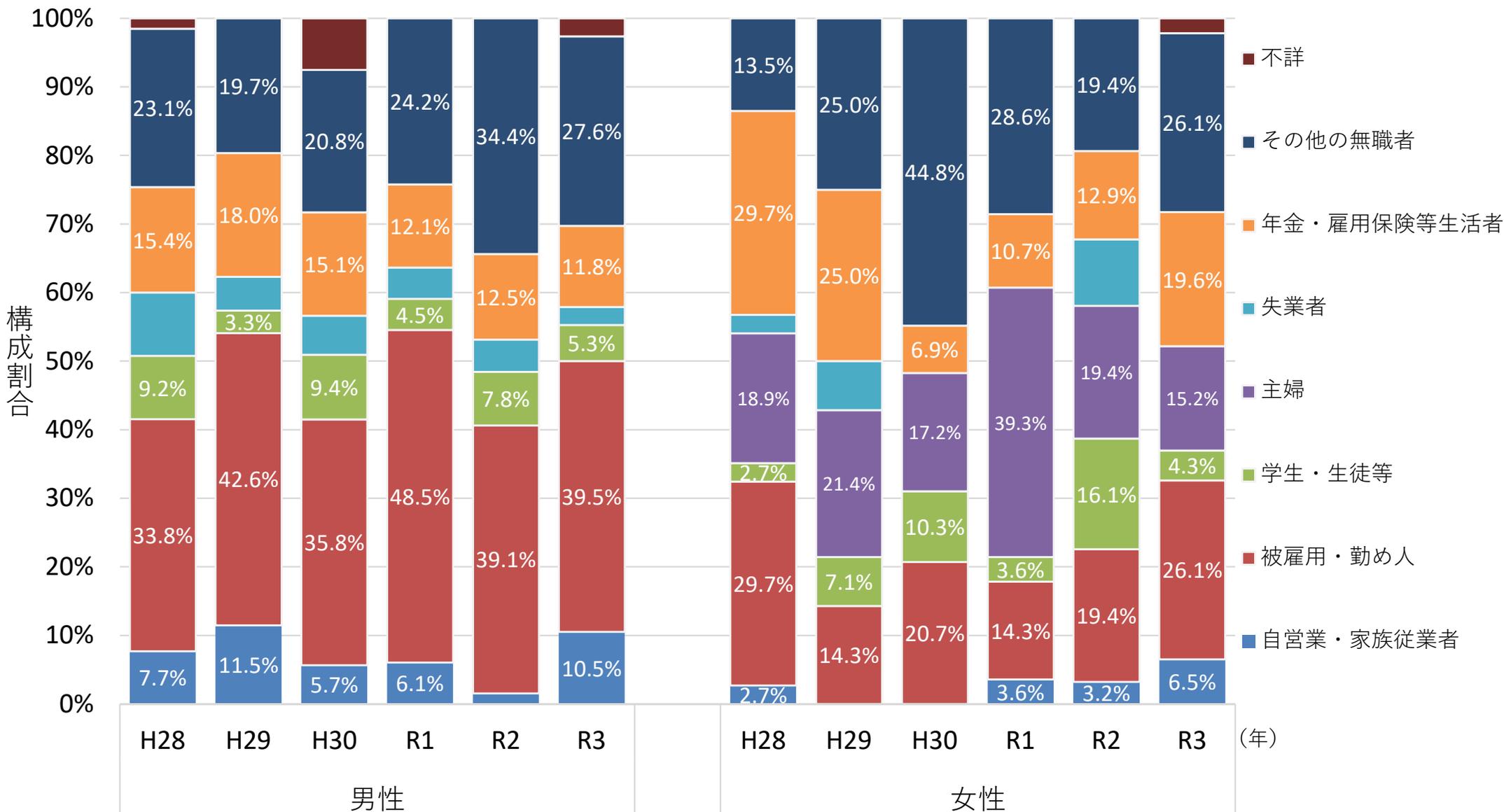


資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（警察統計 発見日・居住地）より岡山市作成

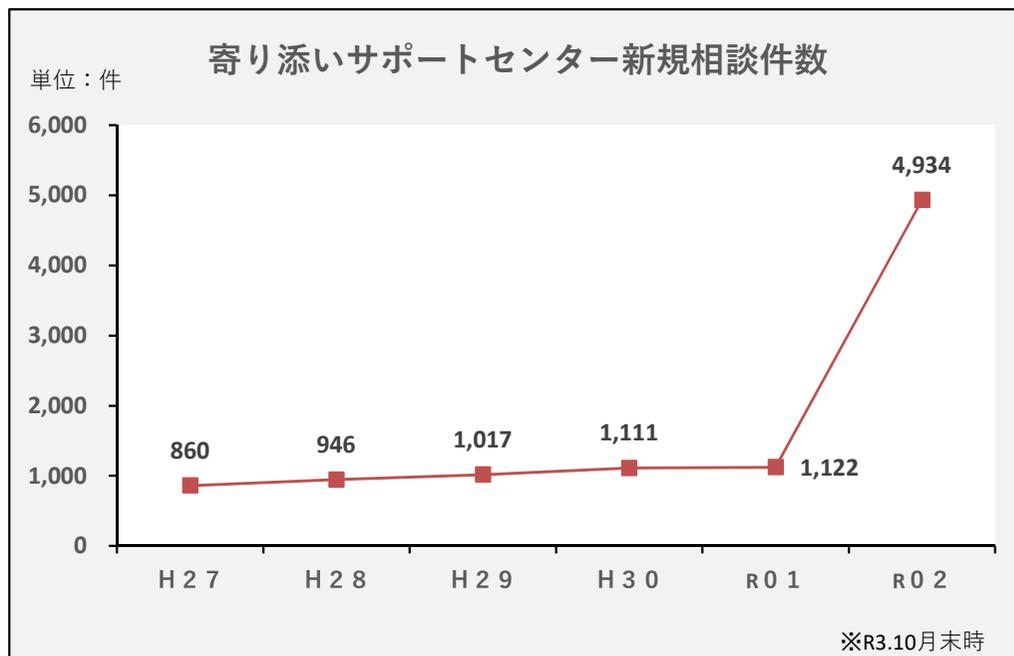
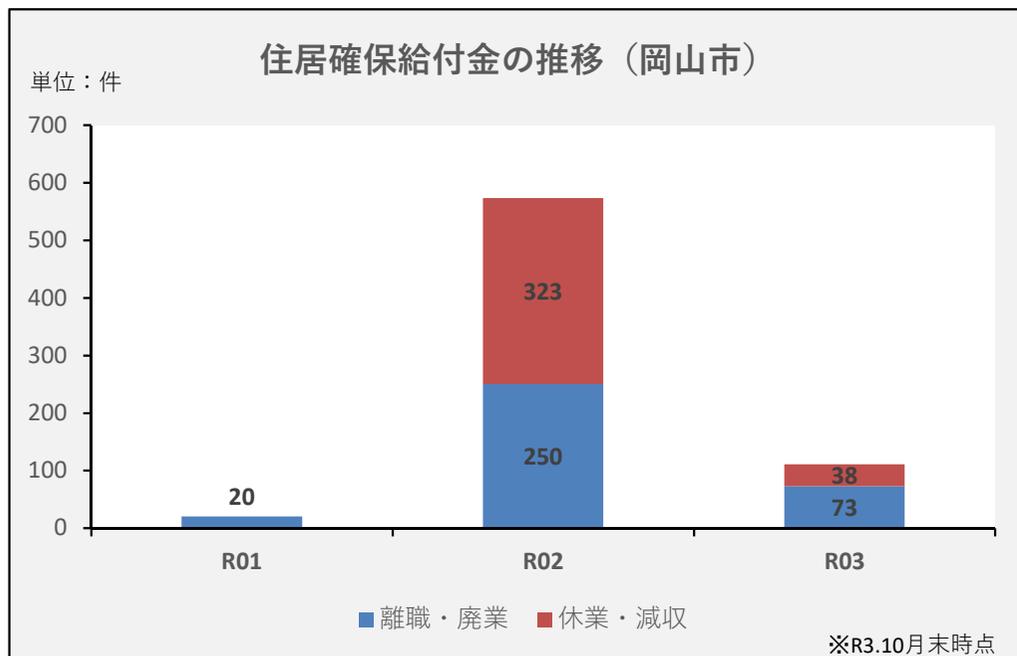
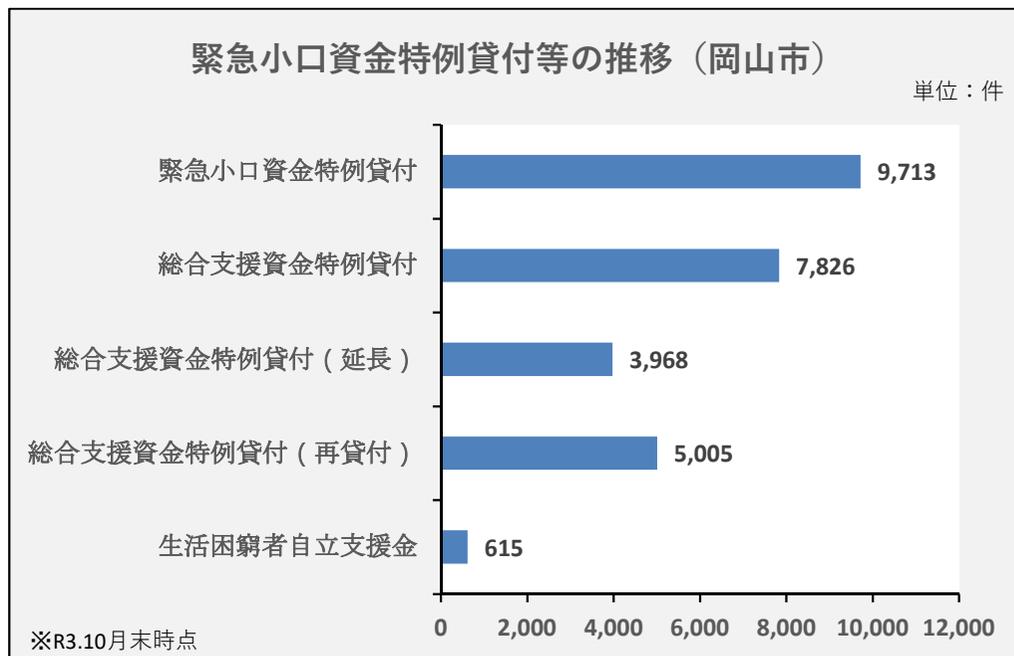
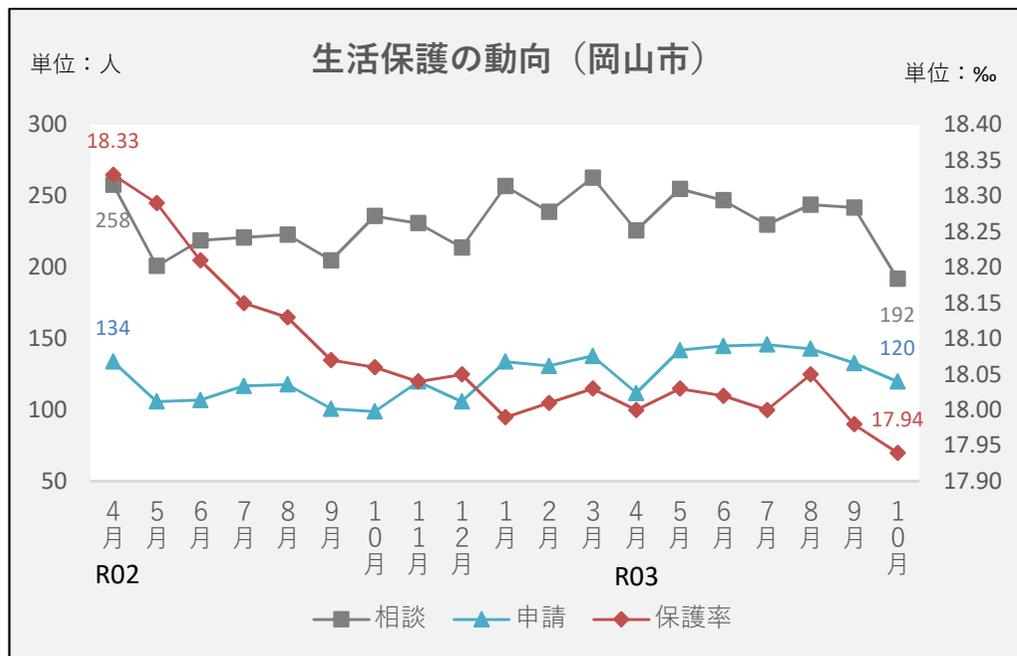
岡山市の職業別自殺死亡者数の構成割合の推移（男女別）

○男性はコロナの前後で構成割合に大きな変化は見られないが、女性はR3年における「被雇用者・勤め人」の割合が大幅に増加している。

H28-R3,推移

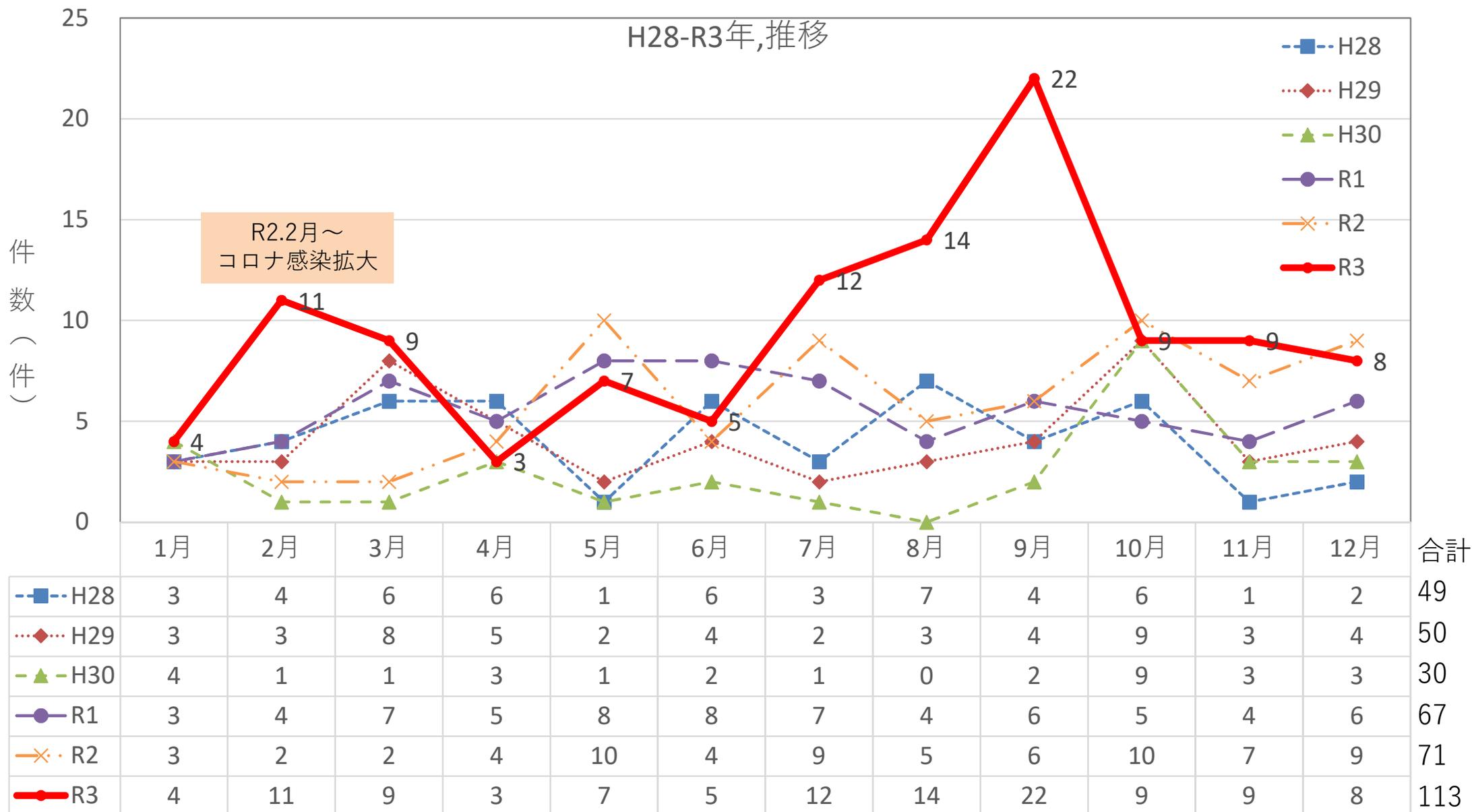


生活保護及び生活困窮者の状況



岡山市自殺対策推進センターへの相談件数の推移（月別）

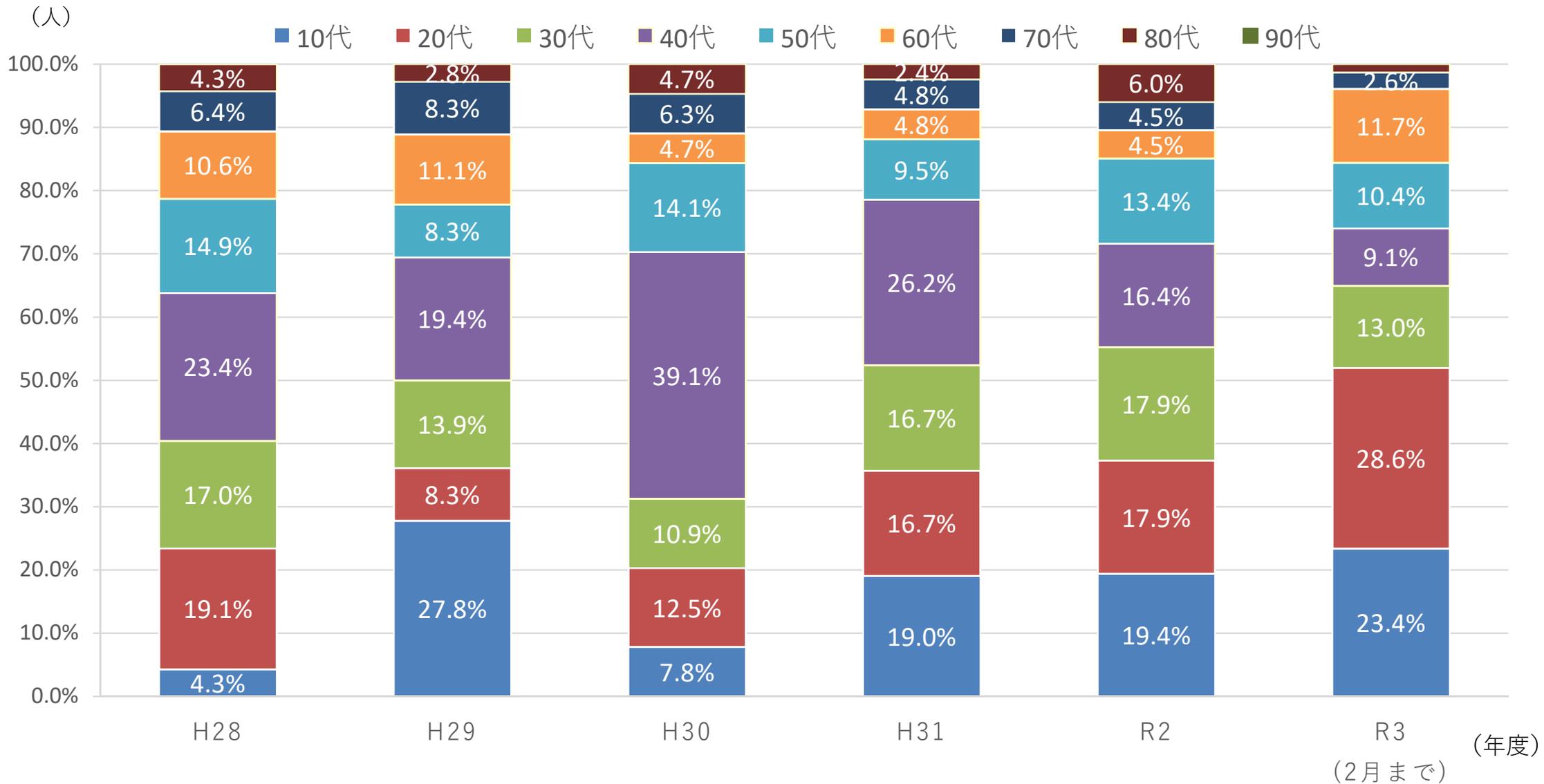
○R3年は例年より高い水準で推移しており、9月の時点で過去最も多い件数となっている。



岡山市自殺対策推進センターへの相談者の年齢階級別割合の推移 (※不明分除く)

○H31年度以降、20代以下の若年層の割合が増加しており、R3年度は2月末時点で約半数が20代以下からになっている。

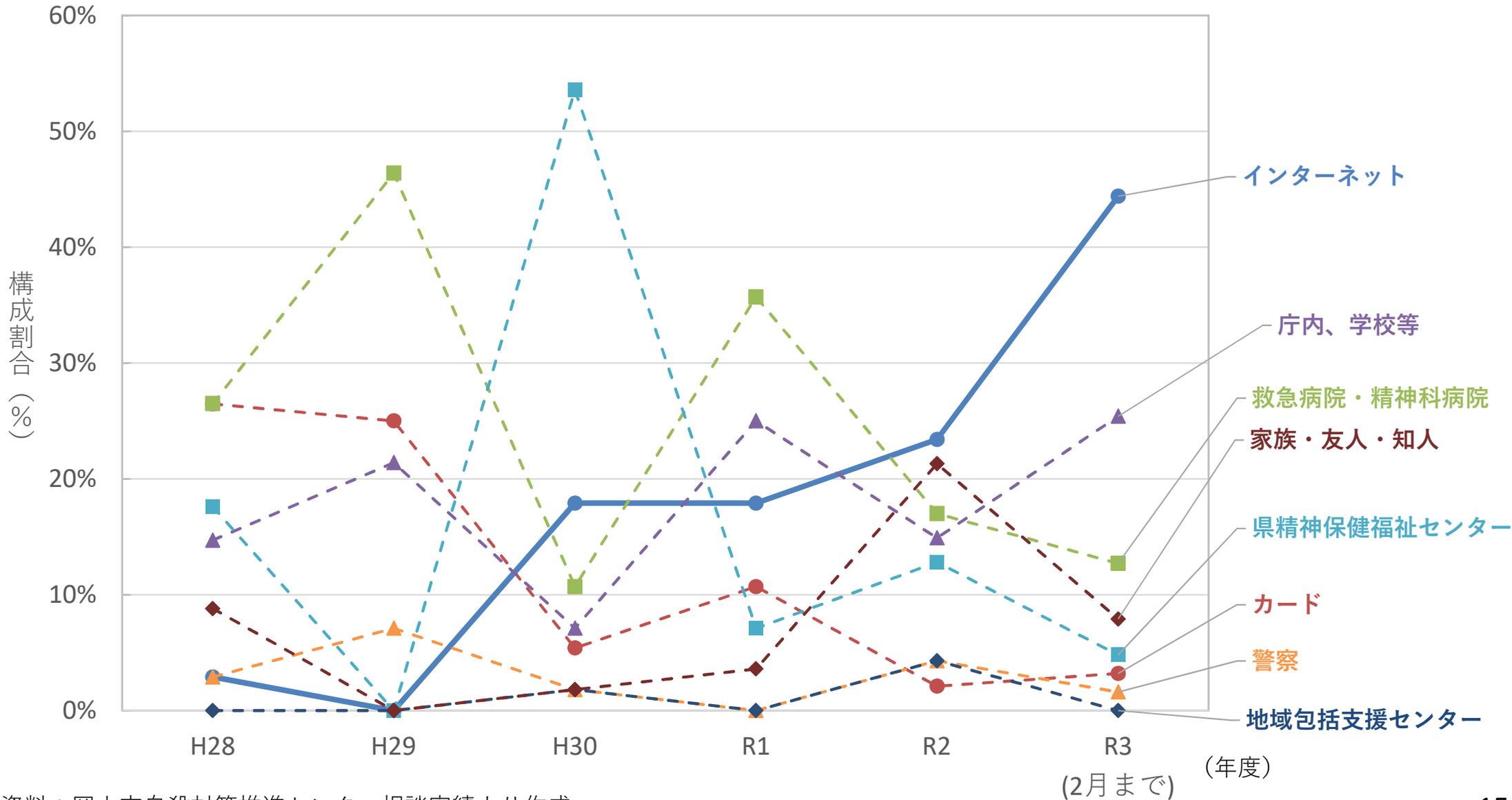
H28-R3(2月まで) 年度推移



岡山市自殺対策推進センターへの相談経路

○H30年度以降、インターネットで相談窓口を知る割合が増加し続けており、R2、R3年度はすべての相談経路の中で最も高くなっている。

H28-R3(2月まで)



こころの健康相談専用電話への相談状況、コロナ禍における取組

○R3年度（10月まで）の相談件数は、対前年同時期比85%に減少している。（4～1月 3,521件 → 3,009件）
 ○コロナに関する相談は対前年同時期比47%に減少している。（4～1月 97件 → 46件）

■コロナに関する相談件数（延）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度	358	304	411	358	355	356	345	329	376	329	284	260	4,065
（うちコロナ関係）	26	18	10	10	9	1	4	4	12	3	0	0	97
R3年度	335	276	303	304	310	314	277	265	294	331			3,009
（うちコロナ関係）	1	4	9	3	15	3	0	0	1	10			46

■コロナに関する主な相談内容と対応

主な相談内容	主な対応
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが心配で浴びるように消毒したり、ひきこもり。 ・コロナで不安。コロナうつになっている。 ・コロナがきっかけで外出できなくなった。 ・コロナのことが頭から離れなくなった。 ・コロナの影響でストレス発散ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴 ・新型コロナウイルス受診相談センター紹介 ・心療内科を紹介

コロナ禍における取組

1. こころの健康に関する市民意識調査の実施
2. 市内中心部のコンビニへの自殺対策推進センター広報カードの試験的配布
3. 商工会議所を通じた、中小企業に向けた自殺対策相談窓口とストレスチェック事業の周知

岡山市こころの健康に関する意識調査結果（速報値）①

■実施目的：こころの健康について市民の現状や考えを把握し、自殺予防対策を含む総合的なこころの健康づくりを進める基礎資料とするためアンケート調査を実施。

■調査対象者：岡山市住民基本台帳から無作為抽出した満15歳～89歳の男女3,000人

■配布及び回収：郵送によるアンケート調査及びWeb回答

■実施期間：令和3年9月～10月

■回収率：43.7%（1,312人）

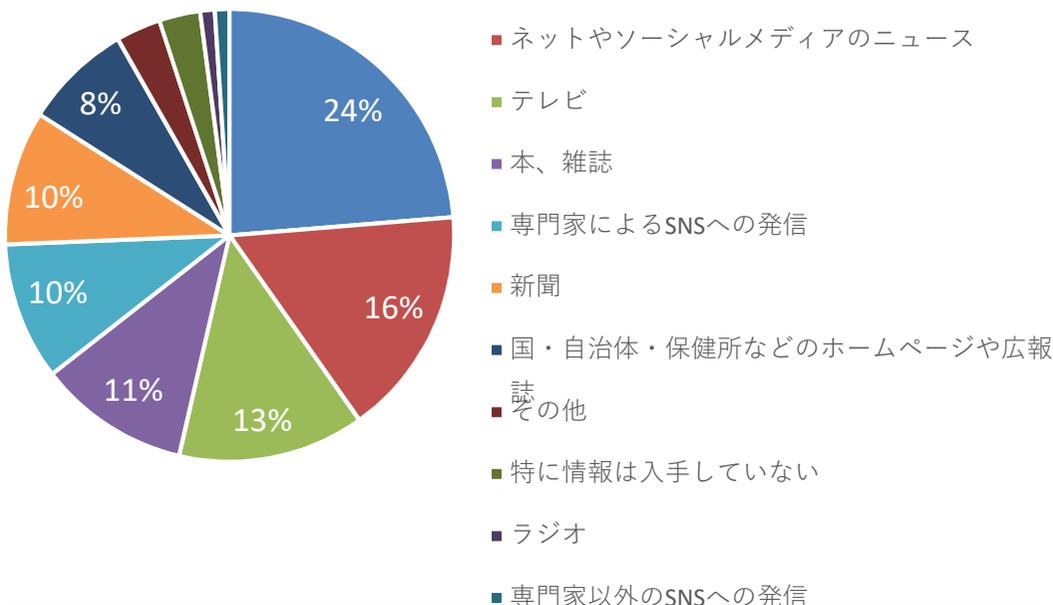
■回答者の属性

性別	男性	女性	その他の性	未回答					
	37.6%	59.1%	0.2%	3.1%					
年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	未回答
	5.0%	7.5%	10.9%	16.8%	16.0%	15.8%	15.5%	9.4%	3.0%

<アンケート結果のうち主なもの>

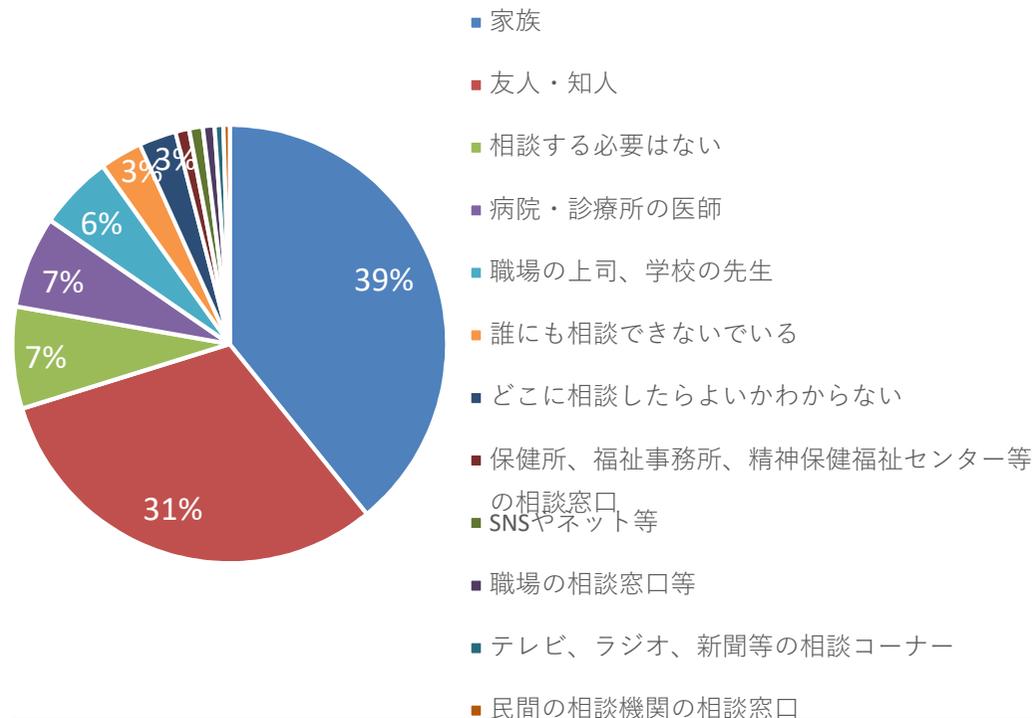
メンタルヘルスに関する情報源として

最も信頼するもの



○最も信頼するのは「家族や友人、同僚からの情報」となっており、次いで「ネットやソーシャルメディアのニュース」も参考にされている。

悩みやストレスを相談する相手



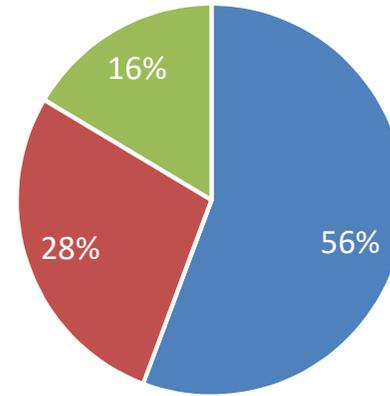
○「家族」や「友人・知人」が大半を占めており、「誰にも相談できないでいる」、「どこに相談したらよいかわからない」と回答した人は全体の6%程度となっている。

感染拡大の前後で増えた・減ったもの

	増えた	やや増えた	変化なし	やや減った	減った	元からしない
食事の量	4.0%	13.3%	68.2%	9.9%	3.0%	0.0%
睡眠時間	2.7%	8.6%	69.7%	12.3%	4.3%	0.0%
運動量	1.4%	5.0%	40.3%	22.9%	23.4%	4.3%
飲酒量	2.7%	6.8%	29.8%	5.0%	7.8%	45.0%
喫煙量	1.3%	2.4%	12.0%	0.5%	1.0%	79.6%
カフェインの量	2.1%	11.8%	62.3%	2.7%	3.2%	15.4%
ゲームをする時間	6.5%	12.5%	20.7%	1.3%	2.4%	54.2%

○感染拡大前と比べて、食事の量やゲームをする時間が増えた、やや増えた、と回答した人が20%程度、運動量が減った、やや減った、回答した人が全体の45%程度となっている。

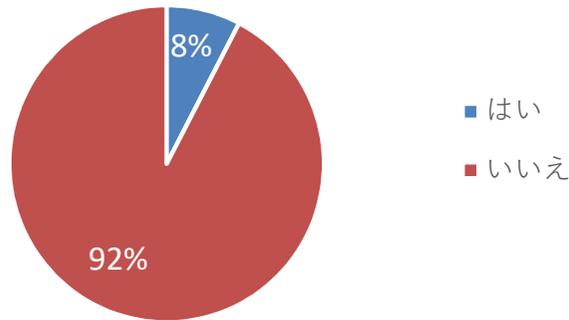
うつ病・不安障害のスクリーニング(K6)



- 問題なし（5点未満）
- なんらかのうつ、不安の問題の疑い（5点以上10点未満）
- うつ病・不安障害の疑い（10点以上）

○うつ病・不安障害の疑い（10点以上）と診断される人が全体の16.5%を占めており、うち、重度の疑い（13点以上）8.2%となっている。

感染拡大以降、死んでしまいたいと思ったことはあるか



○「はい」と回答した人が8%程度となっている。

感染拡大の前後で減った・増えたストレス解消法

	人に話をきいてもらう	睡眠	運動	好きな物、美味しいものを食べる	お酒	人と食事	人とお茶	人と飲み	ゲーム、動画、映画、テレビ	旅行	買い物（ネット以外）	ネットショッピング	我慢して時間が経つのを待つ	その他
回数が減った、しなくなった	6.7%	1.6%	6.7%	5.2%	3.4%	19.7%	13.9%	10.9%	1.6%	16.9%	9.7%	0.6%	1.6%	1.6%
回数が増えた	8.8%	12.7%	6.8%	15.4%	6.6%	1.4%	1.1%	0.3%	20.7%	0.6%	3.0%	8.5%	9.7%	4.4%

○回数が減ったものとしては「人と食事」、「旅行」が最も多く、回数が増えたものとしては「ゲーム、動画、映画、テレビ」が最も多い。また、「我慢して時間が経つのを待つ回数が増えた」と回答した人が全体の9.7%となっている。

コロナ禍における岡山市の現状と考察・課題等（まとめ）

現状（ポイント）	考察・課題等
自殺死亡者数は過去5年間で最も高い水準	<ul style="list-style-type: none">・ R3年度は高い水準で推移しており、コロナ禍における様々な要因が自殺にも影響していると思われるが、その要因を特定することは難しい。・ 一方で、自殺の原因・動機別で見ると、その割合に大きな変化はなく、また、各種生活困窮者支援事業の相談・利用件数が飛躍的に増加していることから、コロナ禍でセーフティネットが一定程度有効に機能し、生活苦による自殺が抑制されていると考えられる。
学生・生徒の自殺死亡者数の増加	<ul style="list-style-type: none">・ 全国的に学生・生徒の自殺死亡者数が増加しており、岡山市では各年で増減はあるものの、令和2年度は過去5年間で最も多くなっている。・ 若いうちからストレスへの対処方法や「助けを求めること」に関する啓発を行うとともに、学校管理者やスクールカウンセラー等への自殺に関する研修の実施やゲートキーパー養成等により、身近で相談がしやすい環境を整えていく必要がある。
20代以下及びインターネット経由の相談の増加	<ul style="list-style-type: none">・ 20代以下の若者からの相談が増加したことにより、インターネット経由の相談が増加したものと考えられる。・ 若者には潜在的な相談支援ニーズがあると考えられるため、市HPの充実など、若者が情報を入手しやすい情報発信手段を強化していく必要がある。加えて、各年代ごとに適切な情報発信手段を取り入れていくことで、岡山市地域自殺対策推進センターに相談しやすい環境を整えていく必要がある。 <p>(R4年度はQRコード付きの相談カードを作成し、市内コンビニ等へ設置する予定)</p>
自損による救急搬送数の増加	<ul style="list-style-type: none">・ 自損に至る前の段階で相談支援につなげるため、引き続き各種相談窓口の周知を行うとともに、相談を受けた機関がハイリスクであると判断すれば、必要に応じて岡山市地域自殺対策推進センター等へつなぐことができるよう、より一層の顔の見える関係づくりが重要。・ 自損後のフォローについて、救急病院、精神科病院との連携を更に強化していく必要がある。

②自殺対策の今後の動き

(国) 自殺総合対策大綱の見直し及びスケジュールについて

○現行の自殺総合対策大綱は、当初の予定通りおおむね5年で見直し、R4年には新たな自殺総合大綱が決定する予定。

資料 3 - 1

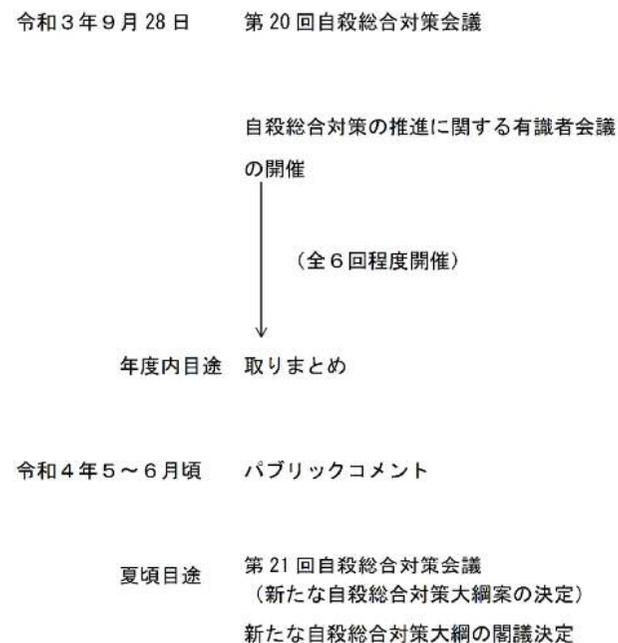
自殺総合対策大綱の見直しについて

〔令和3年 9月28日
自殺総合対策会議決定〕

1. 平成29年7月25日に閣議決定された「自殺総合対策大綱」(以下「現大綱」という。)において、現大綱は、おおむね5年を目途に見直すこととされていることから、令和3年から見直しに向けた検討に着手する。
2. 自殺総合対策会議は、自殺対策基本法(平成18年法律第85号)第23条第2項第1号の規定に基づき、令和4年夏頃を目途に、新たな自殺総合対策大綱(以下「新大綱」という。)の案の作成を行う。
3. 新大綱の案の作成に資するよう、自殺総合対策の推進に関する有識者会議において、現大綱に基づく諸施策の進捗状況を把握し、有識者から意見を幅広く聴取することとする。

資料 4 - 1

新たな自殺総合対策大綱策定までのスケジュール



○現行の「岡山市自殺対策推進計画」はH30年度（2018年度）からH34年度（2022年度）までの5か年計画

○令和4年度夏頃目途

- ・第1回自殺対策協議会の開催
- ・第1回精神保健福祉審議会の開催
- 取りまとめ

○令和4年度秋頃目途

- ・パブリックコメントの実施

○令和4年度冬頃目途

- ・第2次岡山市自殺対策計画の完成

※計画年度：令和5年度（2023年度）から令和9年度（2027年度）

③各団体からの主な意見等

各団体からの主な意見等

岡山市医師会	●コロナ禍で「うつ病」「不安障害」といった患者が増加しているという印象はない。治療を中断させないことが大切なので、次の予約をとって帰ってもらっている。とはいえドタキャンする人はいるので、こちらから電話して様子をきくなど対策をしている。
岡山県精神科病院協会	●コロナ禍で地域での院外講習が実施できなかった。医療従事者のメンタルヘルス対策も必要。
岡山市薬剤師会	●コロナ関係なく毎年薬物乱用防止キャンペーンは実施している。 ●薬剤師へのゲートキーパー研修などあれば、参加を呼び掛けたい。
岡山県司法書士会	●相談を受けるなかで、精神的な悩みがある場合は、適切な相談窓口を紹介するようにしている。
岡山いのちの電話協会	●元々自殺に関する悩みは女性のほうが割合が高かったが、コロナ禍においては、その傾向が大きくなっている。同じ人から複数回の電話が多い。自殺に関する悩みが増えたことで、追い詰められている状況を感じる。
愛育委員会協議会	●地域で精神障害者の方と普通に接することができるように、精神障害者への理解を深めるための取組を行っている。地域での声掛け、あいさつから始めている。H21年から、新生児家庭への訪問を通じて、産後うつの状態の把握に努めている。
民生委員児童委員協議会	●定数が1242名であるが、57名は欠員状態。6福社区にわけて全市に目配り気配りができるはずだが、6～7%の欠員により、十分にはいきわたっていない。
山陽新聞	●自殺について過剰な報道はしない。事実即した報道はするが、自殺に至った経緯などは報道しないし、見出しなど一定の配慮をしている。コロナ禍での社会不安の増大、歓送迎会などの機会がなくなることで、若い人が孤立していく、その現状を変えるのは難しいが、ここにきている人たちと協力してやっていくしかないと思うので、メディアを利用したいときは声をかけてほしい。
岡山労働局	●職場のメンタルヘルスについて、一次予防、二次予防、三次予防とあり、特に重視しているのは一次予防（ストレスチェック）。ストレスチェックしたあとの集団分析と職場環境改善。その部署がどの程度改善が必要かを事業所に認識してもらう必要があり、そのことを重点的に取り組んでいる。
理容生活衛生同業組合	●250名の組合員のうちほどゲートキーパー研修を受講済み。令和2年度はゲートキーパー研修はひらかれていないが、自殺予防月間には周知をしている。躁鬱の場合、躁状態のときに髪を切りにくる。何かおかしいところが見受けられたら関係機関につながないといけないと認識している。